

まちの話題

バドミントンで九州大会出場

7月26日、日本経済大学3年の合屋ひな彥さん(三国中出身)が、国体福岡県予選会で好成績を収め、福岡県代表として国体九州大会に出場することを市長に報告しました。

小学1年生からバドミントンを始め、父親はジュニアチームの監督、兄弟も全国大会に出場とバドミントン一家の合屋さん。身長を生かした高い所からのスマッシュが得意とのこと。

九州大会に向けて「県代表としての初めての出場で緊張するが、粘り強くプレーし結果を残したい」と話しました。



小郡市消防団ポンプ操法大会

7月3日、三井消防署訓練場で第39回小郡市消防団ポンプ操法大会が開催されました。コロナ禍の影響で、大会は3年ぶりの開催。2年のブランクがある中、操法実技の一部が見直され、パフォーマンス的な動作が審査対象外となりました。各分団は試行錯誤しながら訓練に励み、大会本番に臨みました。

今大会は第4分団が優勝。優勝した第4分団の柳分団長を監督として、全分団からの選抜選手によるチームで9月4日に開催される県大会へ出場します。小郡市消防団一丸となって臨みます。



陸上で九州大会出場

8月5日、小郡RC所属・大原中学校3年の村上遵世さんが、福岡県中学校陸上競技大会男子800mで好成績を収め、九州大会出場を市長に報告しました。

村上さんは、午前は大原中の特設陸上部で、午後は小郡RCで練習に励んでいます。

「九州大会でも1位をめざしたい」と目標を語ってくれました。宣言通り、8月7日に行われた九州大会で1位になりました。

高校生になっても陸上を続けていきたいと話してくれた村上さん。今後のさらなる活躍に期待です。



陸上で全国大会出場

7月20日、三国中学校3年の吉田葵唯さんが全日本中学校通信陸上競技大会で好成績を収め、全国大会出場を市長に報告しました。

吉田さんは「思うような走りができず、諦めてしまいたいと気持ちが沈んでいた時期もあったが、なんとか気持ちを切り替え練習に励んだ」と語ってくれました。その結果どんどん記録を更新し、全国大会を控えた今でもその勢いは止まっていないそうです。

市長室に飾られた短冊には「全国大会で決勝に残れますように」と意気込みを書いてくれました。





小郡市出身の益永さんから博多人形寄贈

7月10日、博多人形伝統工芸士の益永栄喜さんから、七夕にちなんだ博多人形が市へ寄贈されました。益永さんは内閣総理大臣賞など、数々の名誉ある賞を受賞しています。アクロス福岡で開催した「七夕の里おごおり」展がきっかけとなり、寄贈が実現しました。

「一番大変な工程は“構想”」と話す益永さん。寄贈を受けた作品「逢瀬幾年七夕の夜」は、都内で出会った七夕の絵画に惚れ込み、構想から造形、色塗りまで約2年を費やした作品で、福岡市長賞を受賞しています。加地市長は「小郡市の宝として大切にしたい」とお礼の言葉を述べました。作品は、生涯学習センターの七夕ホール付近に展示しているので、ぜひご覧ください。



寄贈作品
「逢瀬幾年七夕の夜」



生涯学習センターに展示中

小郡中学校吹奏楽部が2年連続九州大会出場

8月19日、小郡中学校吹奏楽部が、福岡県吹奏楽コンクールにおいて銀賞を受賞し、熊本県で行われる九州吹奏楽コンクールへの出場を市長に報告しました。

昨年は九州大会初出場、さらに演奏順がトップバッターで不慣れなことが多かったとのこと。しかし、今年は昨年の大会経験者も多く出場します。

部員の皆さんは「コロナ禍で環境が厳しい中でも、徹底して練習してきた。日頃の成果を出したい」と抱負を語りました。

※8月20日に行われた九州吹奏楽コンクールで、見事銀賞を受賞しました



福岡市のアクロス福岡で小郡をPR

7月4日～10日にアクロス福岡で、「七夕の里おごおり」展が行われました。パネル展では、小郡市が七夕の里と呼ばれる理由や七夕イベント紹介のほか、住環境の良さをPR。設置した笹には多くの短冊が飾られました。

最終日は、市内事業者、市長、市職員が登壇して約2時間のトークイベントを開催し、小郡の七夕の歴史や町おこしなどの魅力を発信。参加者からは「小郡に本当に行ってみたくなった!」と嬉しいアンケート回答がありました。

